

新年の挨拶

会長 長田 和志

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、清々しく、厳粛な新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当工業会の活動に積極的なご参加を戴き大変感謝するとともに、厚くお礼申し上げます。

本年も会員の皆様のニーズをくみ取り、果敢な活動を行ってゆきたく考えております。当工業会活動へのより一層のご協力と積極的なご参加をお願い致します。

また、昨年は豪雪、豪雨そして地震、台風と自然の脅威を実感する年でした。本年は是非とも穏やかであってほしいと心より願ってやみません。



さて、私たちの業界に大きく影響する事態や社会問題がございました。

まず、一昨年に端を発した「中国の廃プラスチックなどの輸入停止問題」です。その影響で国内では従来マテリアルリサイクルされていた百数十万トンもの廃プラスチックが RPF はもちろん、セメント、焼却、果ては埋立などに押し寄せ、廃棄物処理価格の高騰を招きました。このことは日本だけでなく、世界中の廃棄物リサイクルにおける混乱を招いています。これを教訓に、自国内での廃棄物の資源循環が重要であることが再認識されたと確信しています。

そして、「海洋プラスチック汚染問題」、「地球温暖化」への取り組みが急速に世界的な流れとなってきています。

環境省は、以下のプラスチック資源循環戦略を掲げました。

- ①レジ袋の有料化の義務化
- ②容器包装ブラの 25%削減
- ③バイオブラの利用促進 200 万トン
- ④容器包装ブラのリサイクル率 100%の実現(2035 年迄 熱回収含)
- ⑤途上国への廃棄物の資源循環システム構築への支援

以上が、本年 6 月の大阪で開催される G20 で政府方針として発表されます。

このような状況下の中、日本RPF工業会は、安定的・継続的な成長を継続するため、技術・品質委員会、安全・衛生委員会、総務・広報委員会の活動を通じて情報提供を図って行きたいと考えています。

本年の活動目標として

1. 自国内での廃棄物資源循環を促進するため、RPFの積極的な用途開発
2. 人手不足対策
3. 途上国への技術移転及び廃棄物循環システムの構築支援
4. RPF、SRFのISO化などによる燃料商品としての位置づけ向上

本年は、4月の統一選挙、5月には改元、6月にはG20大阪開催、10月には消費税の増税と、あわただしい一年になると思われます。

そして、私たちにとっても、目の前にある諸問題は多岐に亘っていますが、これを好機と捉え果敢に活動することにより工業会の真価が問われる年になります。各委員会の活発かつ機敏な活動と会員の皆様の積極的なご参加により、業界全体、会員企業の発展飛躍を期すよう努めてまいりたく考えています。

本年も、益々のご協力を宜しくお願いしたく、新年のご挨拶といたします。